

地域密着型サービス評価の自己評価票

(  部分は外部評価との共通評価項目です )

取り組んでいきたい項目

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)	
<b>I. 理念に基づく運営</b>				
1. 理念と共有				
1	<input type="checkbox"/> 地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	パンフレット表紙と開いた部分に地域の中で、あゆみの杜としてどういう方向で関わっていくのかを皆で考え、明示している。	○	開設から約1年経過し、住み慣れた地域でともに歩んでともに生きるということを職員会、研修会、日々の関わり等を通して再確認する。
2	<input type="checkbox"/> 理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	スタッフルームに提示し、管理者との面接を通して確認している。		
3	<input type="checkbox"/> 家族や地域への理念の浸透 事業所は、利用者が地域の中で暮らし続けることを大切にしたい理念を、家族や地域の人々に理解してもらえるよう取り組んでいる	建物内に掲げ、また、運営推進会議や地域との交流を通して理解してもらえる様に取り組んでいる。	○	現在の働き掛け以外に、地域の福祉会等にも参加し、理解してもらえる様に取り組んでいく。
2. 地域との支えあい				
4	<input type="checkbox"/> 隣近所とのつきあい 管理者や職員は、隣近所の人と気軽に声をかけ合ったり、気軽に立ち寄ってもらえるような日常的なつきあいができるように努めている	挨拶程度、またはそれに合わせて多少の話をするくらいで、気軽に立ち寄ってもらえる様な関係はまだ出来ていない。	○	大きい行事だけの働き掛けだけでなく、商店街を歩いたり買物する機会を多くして、触れ合える時間を多く持てる様に支援する。
5	<input type="checkbox"/> 地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	地域の大きい行事(祭、文化祭、とんど等)には積極的に参加している。また、地域の保育所との交流は多く行っている。		

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
6	○事業所の力を活かした地域貢献 利用者への支援を基盤に、事業所や職員の状況や力に応じて、地域の高齢者等の暮らしに役立つことがないか話し合い、取り組んでいる	併設の温泉施設で地域高齢者サロンは行っているが、具体的にどんな取り組みをしていくのかの話し合いはされていない。	○	地域の高齢者の方に対してどんな取り組みをしていけば良いのか話し合いをしていきたい。
3. 理念を実践するための制度の理解と活用				
7	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	今回が初めての評価であるが、評価結果を活かして皆で改善していくことを職員会で話し合いは行った。	○	結果をもとに全職員で見直し、改善に取り組んでいく。
8	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	利用の状況や日常生活の様子、行事等の報告を行い、そこで意見を頂いたものについては、その後のケアやサービス向上に活かしている。		
9	○市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	積極的ではないが、入居の際の連携や困難ケース等あれば、必要時に相談させて頂いている。		
10	○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、地域福祉権利擁護事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、必要な人にはそれらを活用できるよう支援している	現在、該当者があり、活用しているが、制度について理解している職員は一部であり、学ぶ機会を十分に設けていない。	○	一部、特定の職員だけでなく、事業所内外の研修等を受ける機会を持ち、職員全員が把握できる様にしたい。
11	○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内で虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	日々のケアについては入居者の全身状態を確認し、対応についても気になる点があればその都度、注意するようにしている。学ぶ機会は十分に設けてはいない。	○	虐待防止についての理解を深め、日々のケアに照らし合わせながら防止に努めていきたい。

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
<b>4. 理念を実践するための体制</b>				
12	○契約に関する説明と納得 契約を結んだり解約をする際は、利用者や家族等の不安、疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	入居決定から実際の入居日までに話し合いが出来る時間を設け、契約時にも十分な説明を行い、疑問や不安が解消できる様に努めている。		
13	○運営に関する利用者意見の反映 利用者が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	利用者からの意見については、その為の機会は設けていないが、日々の関わりの中で感じ取り、管理者やリーダーへ報告。申し送り帳等を活用して皆で共有し、必要な対応をとるようにしている。その他、外部者へ表わす機会が現段階では設けていない。	○	運営委員会への参加や外部から相談員的な人に入って頂く等の検討を行う。
14	○家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている	面会時に報告している。その他、突発的な出来事があった場合は電話にて早期対応に心掛けている。	○	定期的な広報や面会時以外に一人ひとりの様子を伝えることが出来るたより発行の検討をしている。
15	○運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	苦情受付窓口を重要事項説明書に記載。運営委員会の開催。また、面会時に入居者の様子を伝えながらなるべく家族と話が出来る機会が持てる様にしている。		
16	○運営に関する職員意見の反映 運営者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	職員会やリーダー会議で運営に関する報告を受け、それに対して意見や提案を聞く機会を設けているが、反映されているというレベルには達していない。		
17	○柔軟な対応に向けた勤務調整 利用者や家族の状況の変化、要望に柔軟な対応ができるよう、必要な時間帯に職員を確保するための話し合いや勤務の調整に努めている	対応可能となる様に、日程や勤務の調整は行っている。		
18	○職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	原則、移動は行っていない。		

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)	
<b>5. 人材の育成と支援</b>				
19	<p>○職員を育てる取り組み</p> <p>運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている</p>	事業所内外への研修計画は作成したが、計画的には進んでいない。	○	職員のニーズも取り入れ、外部、内部研修会の機会を定期的に設ける。
20	<p>○同業者との交流を通じた向上</p> <p>運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている</p>	町の在宅福祉担当者会、圏域の管理者連絡会やグループホーム部会に出席し、情報交換や勉強会に参加しているが積極的には取り組まれていない。	○	外部との交流の機会を多くし、まずはネットワークの充実を図りたい。
21	<p>○職員のストレス軽減に向けた取り組み</p> <p>運営者は、管理者や職員のストレスを軽減するための工夫や環境づくりに取り組んでいる</p>	日常的に管理者やリーダーが声を掛けたり、親睦会、忘年会等も行っているが、開設初年度ということもあり慣れないことも多く、ストレスはたまりやすい状況ではある。	○	交流の場を増やし福利厚生に力を入れ、働きやすい職場作りに努める。
22	<p>○向上心を持って働き続けるための取り組み</p> <p>運営者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、各自が向上心を持って働けるように努めている</p>	職員個々の状況や勤務状況については報告もあり把握している。		
<b>II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>				
<b>1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応</b>				
23	<p>○初期に築く本人との信頼関係</p> <p>相談から利用に至るまでに本人が困っていること、不安なこと、求めていること等を本人自身からよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている</p>	利用相談があれば、本人の生活の場まで出向き、入居までのところで本人から話が聞ける機会を作っている。必要に応じてそれまで関わってこられたケアマネ等からも意見を聞く様になっている。		
24	<p>○初期に築く家族との信頼関係</p> <p>相談から利用に至るまでに家族等が困っていること、不安なこと、求めていること等をよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている</p>	利用相談があれば、本人の生活の場まで出向き、入居までのところで家族から話が聞ける機会を作っている。必要に応じてそれまで関わってこられたケアマネ等からも意見を聞く様になっている。		

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
25	○初期対応の見極めと支援 相談を受けた時に、本人と家族が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	相談を受ける前に関わってこられたケアマネ、地域包括支援センター職員等から、どうしてこのサービスを選ぶことになったかを聞き、その上で面接の機会を持つ。本人や家族にとって他サービスが良いと思われる場合には、その点も含めて相談することもある。		
26	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	ケアマネが複数回、本人とお会いする機会を持ち、新たな場所でも知った顔があるようにしている。 また、必要に応じて見学を進めている。		
<b>2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援</b>				
27	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	日々の何気ない1つの出来事でも共にすることで学ばせて頂くことも多いが、つい職員主体になってしまうこともあるので職員間で連携を取りながら共にすることで信頼関係を築く努力はしている。	○	「する」「される」の立場ではなく、一緒に行くことによって、一人ひとりを再度把握し、その方が必要とされる関係を築く。
28	○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、喜怒哀楽を共にし、一緒に本人を支えていく関係を築いている	本人の家族を思う一言や何気ない出来事でも家族に伝え、本人にとっては家族が大切な人なんだと思われていることを伝え、共に本人を支えていける様、働き掛けている。	○	面会時以外での関わる機会の検討を行う。
29	○本人と家族のよりよい関係に向けた支援 これまでの本人と家族との関係の理解に努め、より良い関係が築いていけるように支援している	入居までの本人と家族の関係を把握しておき、本人の様子や思いを伝え、必要に応じて間に入ったり話せる場を作ったりしている。		
30	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	外部からの働き掛けにはその都度応じているが、グループホーム側からの支援は消極的であり、個々が出身地域や馴染みの場所、人に接する機会は少ない。	○	馴染みの場所や人等の情報を集め、家族にも協力してもらいながら取り組んでいきたい。
31	○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せず利用者同士が関わり合い、支え合えるように努めている	気の合う入居者を把握し、同じ活動と一緒に声を掛けたり、間に入って入居者同士が関わりを持てる様になっている。また、気の合う入居者同士だけでなく、他の入居者とも関わりが持てる様に、共通の話題を持ち出したりと配慮している。		

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
32	○関係を断ち切らない取り組み サービス利用(契約)が終了しても、継続的な関わりを必要とする利用者や家族には、関係を断ち切らないつきあいを大切にしている	継続的な関わりが必要とされている訳ではないが、それまで縁あって関わらせて頂いたので、家族同意の上で入所先に面会に行くことはある。		
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>				
1. 一人ひとりの把握				
33	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	入居時に生活歴や思い、意向等の聞き取りを行っている。またそれが困難な場合には日常的な会話や行動から本人の思いを探るようにしているが、情報不足な面は多い。	○	アセスメント方法(センター方式)の検討を行う
34	○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入居前の情報提供をもとに再度、情報収集を行い、把握に努めている。また、日常会話のキーワードに使用することもある。それによりまた新たな情報が収集できる。	○	アセスメント方法(センター方式)の検討を行う
35	○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状を総合的に把握するように努めている	一人ひとりの1日の過ごし方をケア記録として記入し、全職員が把握できるようにしているが、内容が希薄になりやすい。特変があった場合は他の記録(申し送り帳、受診ノート)を通して情報を共有しやすくしている。	○	記録方法や言葉の統一化を図る。 書式の見直し、修正を定期的に検討する。
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し				
36	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	本人、家族にとって「どうありたいのか」「どうあってほしいのか」を話し合いや会話を通して把握しておき、それを考慮しながら実現可能なものについて立案している。 (職員からの意見は消極的になりやすい)	○	職員一人ひとりの意見を参考に具体的な生活の中の計画にしていく必要がある。
37	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	定期的見直しを行い、必要に応じて変更しているが、初回に比べると話す機会が少なくなりがちである。	○	全職員の意見を聞いた上で、評価、見直しを行う。

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
38	○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	日々の様子は個別に記録されているが、実践や見直しにはあまり活かされていない。記入する内容が職員個々により違いがあるので統一性に欠けている。	○	統一された記入方法、書式の検討を行う。
<b>3. 多機能性を活かした柔軟な支援</b>				
39	○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	本人や家族の状況に応じ、その都度で柔軟に対応している。		
<b>4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働</b>				
40	○地域資源との協働 本人の意向や必要性に応じて、民生委員やボランティア、警察、消防、文化・教育機関等と協力しながら支援している	避難訓練や行事の際に声を掛けている。		
41	○他のサービスの活用支援 本人の意向や必要性に応じて、地域の他のケアマネジャーやサービス事業者と話し合い、他のサービスを利用するための支援をしている	本人や家族に意向があり、また、本人の状況が他サービスの対象であると思われる場合には必要に応じて情報収集、提供を行い、スムーズに移行できる様に支援している。		
42	○地域包括支援センターとの協働 本人の意向や必要性に応じて、権利擁護や総合的かつ長期的なケアマネジメント等について、地域包括支援センターと協働している	地域包括支援センターの職員にも運営推進会議に入っている。必要に応じて相談をしている。		
43	○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	在宅からの継続か、または本人、家族の希望を聞き主治医を決定している。その都度、家族の協力を得て受診したり、往診もして頂ける体制をとっている。		

	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
44	○認知症の専門医等の受診支援 専門医等認知症に詳しい医師と関係を築きながら、職員が相談したり、利用者が認知症に関する診断や治療を受けられるよう支援している	状況に応じて主治医と相談し、必要であれば専門医の診断が受けられる様に支援する体制は取れるようにしている。体調不良については、都度の報告をしているが、それに比べれば、認知症についての対応は十分ではない。		
45	○看護職との協働 利用者をよく知る看護職員あるいは地域の看護職と気軽に相談しながら、日常の健康管理や医療活用の支援をしている	日常の健康管理は看護職員が協力病院や主治医と連絡をとりながら中心となり行っている。		
46	○早期退院に向けた医療機関との協働 利用者が入院した時に安心して過ごせるよう、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて連携している	入院先になるべく出向く機会を多くして、その都度情報収集をしたり相談室や地域医療部に相談し、連携がとれる様、努めている。		
47	○重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	現在までに対象がないが、重度化した場合や終末期についても可能な限り、本人、家族の希望にそえる体制をとろうという話し合いはされている。	○	今後、どう取り組んでいくべきかの具体的な検討を進めていく。
48	○重度化や終末期に向けたチームでの支援 重度や終末期の利用者が日々をより良く暮らせるために、事業所の「できること・できないこと」を見極め、かかりつけ医とともにチームとしての支援に取り組んでいる。あるいは、今後の変化に備えて検討や準備を行っている	現在までに対象がない。 今後、取り組んでいくべきという話し合いはされているが、それに備えての具体的な検討、準備はされてない。	○	今後、どう取り組んでいくべきかの具体的な検討を進めていく。
49	○住み替え時の協働によるダメージの防止 本人が自宅やグループホームから別の居所へ移り住む際、家族及び本人に関わるケア関係者間で十分な話し合いや情報交換を行い、住み替えによるダメージを防ぐことに努めている	本人、家族に合わせ、関わる人が集まり、話し合いを行ったり、文書による情報提供を行っている。	○	本人の生活のつながりが切れてしまわない様に、必要な話し合い、情報提供を行う。



項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>			
1. その人らしい暮らしの支援			
(1)一人ひとりの尊重			
50	○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	職員会、または日常的に個人の尊重については職員に話されており注意はしているが、適切でない言葉や態度が出てしまうこともある。個人情報の取り扱いについて、全職員に把握されていない。	○ 個人情報の取り扱いについての理解を深める。 記録物の置き場所の検討。 職員お互いが注意しあう。
51	○利用者の希望の表出や自己決定の支援 本人が思いや希望を表せるように働きかけたり、わかる力に合わせた説明を行い、自分で決めたり納得しながら暮らせるように支援をしている	本人との会話や日常の行動の様子から思いや希望を汲み取る働きかけをしている。自分から決定が出しにくい場合でも、選択肢を出してなるべく自己決定ができる様に配慮している。	
52	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	基本的には希望にそった支援を心掛けてはいるが、時間帯やその時の状況によって希望にそえないこともある。	○ 希望にそえないことについても、職員の勤務時間や仕事の流れを変えることによって対応できるのでは？という方向で検討している。
(2)その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援			
53	○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援し、理容・美容は本人の望む店に行けるように努めている	家族が面会時に散髪される方もある。希望があれば行きつけの店まで外出支援を行っている。服の選択や身だしなみもなるべく本人に任せ支援している。着ている服や、小物に対して声を掛けたり、それを、会話の展開のきっかけにしたりしている。本人が好む着こなしもあるので、聞きながら楽しみながら支援している。	○ 地域の商店に声を掛け、おしゃれ(服、化粧等)をテーマとした訪問をして頂く。
54	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	食材の下ごしらえや配膳、片付け等をして頂くこともあるが、時々であり職員で済ませてしまうことが多い。誕生日には個々の好み、希望に合わせて提供している。	○ 一人ひとりの力を見極め、お願いできることは一部分でも一緒に行く。
55	○本人の嗜好の支援 本人が望むお酒、飲み物、おやつ、たばこ等、好みのものを一人ひとりの状況に合わせて日常的に楽しめるよう支援している	飲み物、おやつについては希望を聞くこともあるが、選択肢も少ない。個々に買物に出掛けることもあるが、支援としては不十分と思われる。	○ 本人の嗜好を取り入れて、楽しめる機会を増やしていきたい。

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
56	○気持ちよい排泄の支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして気持ちよく排泄できるよう支援している	定時、随時のトイレ誘導や声掛けを行い、なるべく気持ちよく排泄ができる様に支援している。また、パットやパンツを使用する場合でも本人の状況に合わせて使い分けている。		
57	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	併設の温泉の湯を使用している。入浴は、希望があれば毎日でも入浴出来るが、スタッフの都合で入って頂くことがある。	○	拒否や希望がない場合は声を掛ける職員やタイミングを変えたり等で対応している。勤務時間や仕事の流れを再検討し、少しでも希望に近づける様にしたい。
58	○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、安心して気持ちよく休息したり眠れるよう支援している	一人ひとりの生活に合わせて休みたい時は自室に戻り休まれる。眠剤の使用も殆どなく眠ることが出来ている。		
<b>(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援</b>				
59	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	徐々にではあるが、利用者の趣味や興味があることを、生活歴や本人との話の中で見つけ、日常に取り入れて、楽しんでいただいている。		
60	○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	大金ではないが、家族の了解もあり自分で管理されることもある。預かっている方で手元にないと不安になる方については、買物の時等に本人のお金を手渡すことで安心され一緒に買物に行っている。		
61	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	その日によって、希望にて買い物に出掛けたり、散歩、ドライブ、町のイベント(祭・文化祭。とんど祭など)に出掛けている。	○	職員の考えだけでなく、一人ひとりの希望に副った外出支援をしたい。
62	○普段行けない場所への外出支援 一人ひとりが行ってみたい普段は行けないところに、個別あるいは他の利用者や家族とともに出かけられる機会をつくり、支援している	定期的に、「ドライブ」として町内めぐりや、近くの市・町に出かけている。また、家族さんと外出・外泊される利用者もおられ、希望があれば、送迎等の支援を行っている。	○	職員の考えだけでなく、一人ひとりの希望に副った外出支援をしたい。

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
63	○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	希望時に電話をして頂いている。	○	定期的に写真付のたよりを家族の方へ送り、近況報告をする事も実施したい。
64	○家族や馴染みの人の訪問支援 家族、知人、友人等、本人の馴染みの人たちが、いつでも気軽に訪問でき、居心地よく過ごせるよう工夫している	訪問(面会)の時間制限はしていない為、自由な時間に訪問して頂ける。併設して温泉施設がある為、温泉利用された後に家族や知人の面会がある。 本人の居室以外にも、ホールや廊下でもゆっくり話せる様にソファを置いている。		
<b>(4) 安心と安全を支える支援</b>				
65	○身体拘束をしないケアの実践 運営者及び全ての職員が「介護保険法指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束は、行っていない。 開設時に方針として「身体拘束はしない」ことを話している。 自覚のない行動があった時はその場で注意している。	○	職員全員が身体拘束を行わないケアをしっかり把握し、今後研修会等の実施を行う。
66	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	各居室に鍵はなく、鍵は夜間のみ安全の為、戸締りの意味でかけている。		
67	○利用者の安全確認 職員は本人のプライバシーに配慮しながら、昼夜通して利用者の所在や様子を把握し、安全に配慮している	プライバシーに配慮し、利用者が気にならない程度に見守りを行っている。夜間については、特変がなければ1時間毎に様子観察を行っている。		
68	○注意の必要な物品の保管・管理 注意の必要な物品を一律になくすのではなく、一人ひとりの状態に応じて、危険を防ぐ取り組みをしている	薬剤関係は、専用のロッカーを設け、保管している。包丁類は、専用の収納庫(殺菌庫)へ保管している。		
69	○事故防止のための取り組み 転倒、窒息、誤薬、行方不明、火災等を防ぐための知識を学び、一人ひとりの状態に応じた事故防止に取り組んでいる	一人ひとりの状態を把握し職員同士での確認を行っている。 事故発生時には、家族への説明や原因追及の為、発生後すぐにミーティングを行い、再発防止を行っている。		

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
70	○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備え、全ての職員が応急手当や初期対応の訓練を定期的に行っている	消防署の協力を得て、救急法の訓練を行っている。		
71	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	消防署の協力を得て、年2回の避難訓練を実施している。また、消火器・消火栓の使い方も指導して頂き、学んでいる。運営推進会議に町の消防団から参加して頂いている。	○	地域の方にも協力して頂き、避難訓練を行う。
72	○リスク対応に関する家族等との話し合い 一人ひとりに起こり得るリスクについて家族等に説明し、抑圧感のない暮らしを大切にされた対応策を話し合っている	家族の方と情報を供用し、対応に役立てている。入居時や状態が変わった時等、起こりうるリスクについて、介護計画や口頭で説明している。		
(5)その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援				
73	○体調変化の早期発見と対応 一人ひとりの体調の変化や異変の発見に努め、気付いた際には速やかに情報を共有し、対応に結び付けている	表情・食欲・顔色・排泄物等をチェックし、普段と変化が生じた際には、看護師に報告。必要であれば、病院への報告・受診を行っている。		
74	○服薬支援 職員は、一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	病院から処方された薬については、変更の都度職員が把握出来るように目の届きやすい場所に保管している。	○	薬に関しての知識を高める必要がある。
75	○便秘の予防と対応 職員は、便秘の原因や及ぼす影響を理解し、予防と対応のための飲食物の工夫や身体を動かす働きかけ等に取り組んでいる	排便表を活用している。出来るだけ「自然での排便を」の考えであるも、排便が続いてない日には、下剤・浣腸を使用している。	○	水分の摂取表を確認し、自然排便が少ない利用者には目安として、一日にどのぐらいの水分が必要なのかを調べ、摂取していただく等の努力をしていく。
76	○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や力に応じた支援をしている	食後、歯磨き・うがいを介助・見守りにて実施している。利用者個人で保管し、洗浄されている方もおられる。確認が不十分である。	○	コップや歯ブラシ等の物品を確認し、使われているかの確認を行う。必要に応じて声掛けや見守り、介助を行う。

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
77	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	栄養士が献立表を立案し、栄養バランスを考えて献立を立てている。 食事・水分量は毎回記録はしているが、記入漏れがある。一人ひとりの状態に合わせて、食事形態や形状、嗜好を変更している。	○ まずは食事摂取量、水分量の記入漏れをなくし確実なチェックができる様にする。
78	○感染症予防 感染症に対する予防や対応の取り決めがあり、実行している(インフルエンザ、疥癬、肝炎、MRSA、ノロウイルス等)	一つ一つの業務前後にこまめに手洗・消毒等で清潔を保っている。特に共有部分は必要時、消毒を行い、手洗い後の手拭きはペーパータオルを使用している。	○ 感染予防マニュアルがあるも、職員全員が目を通していないため、今後職員全員が目を通し、感染予防に心掛ける。
79	○食材の管理 食中毒の予防のために、生活の場としての台所、調理用具等の衛生管理を行い、新鮮で安全な食材の使用と管理に努めている	食器・調理具は殺菌庫を使用し清潔に保管出来ている。また、食材は、適切な温度で保つため倉庫・冷凍冷蔵庫を使用している。	
<b>2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり</b>			
<b>(1)居心地のよい環境づくり</b>			
80	○安心して出入りできる玄関まわりの工夫 利用者や家族、近隣の人等にとって親しみやすく、安心して出入りができるように、玄関や建物周囲の工夫をしている	玄関周りに階段とスロープがあり、玄関横に花を植えて少しでも和やかな雰囲気になる様にしている。初めての方にはわかりにくい場所にあり、併設の温泉施設の看板はあるが、事業所はない。	○ 写真等を掲示する。
81	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	事務所のカウンターに花が置いてある。ホールには、ロールカーテンを使用し外の光が直射に当たらないようにしている。ホールの中庭に面した部分は一面がガラス窓になっており、季節によって変化する外の景色から季節は感じられる。物が少なく、殺風景という印象が強い。	○ ホールのカウンターや利用者が集まる場所にも花等を置き、雰囲気が和む様な環境設定をしていく。
82	○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中には、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	ホールにはソファーや畳の間を設け、利用者同士の会話もみられているが、広くて見渡せる場所が多く、職員にとっては動きやすい環境になっている。	○ 家庭の雰囲気を出し、居心地の良いスペースを作ることが必要。例として、ホールの一角を仕切って、テレビの前にじゅうたんや畳を敷き、家庭用ソファーを置く等、配慮について検討する。

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
83	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	入居の際や後からでも、出来るだけ使い慣れた物を持ってきてもらい使用して頂く様をお願いはしているが、十分ではない。	○	利用者によっては持ち込みの私物が少なく、殺風景の部屋がある為、家族に依頼し使い慣れたものや、長年使っている物を持ってきてもらうように協力を求めている。
84	○換気・空調の配慮 気になるにおいや空気のだよみがないよう換気に努め、温度調節は、外気温と大きな差がないよう配慮し、利用者の状況に応じてこまめに行っている	適正温度に保つ為にエアコン、温泉熱を利用した床暖房等を使用。必要時、換気を行っている。	○	床暖房を使用すると乾燥しやすい為、換気や加湿器の使用を検討する。
<b>(2) 本人の力の発揮と安全を支える環境づくり</b>				
85	○身体機能を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの身体機能を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	浴槽やトイレ、廊下、ホールに手すりを設けている。	○	手すりが必要など所に無い所がある為考えなければいけない。また、本当に使いやすいものなのか検討する。
86	○わかる力を活かした環境づくり 一人ひとりのわかる力を活かして、混乱や失敗を防ぎ、自立して暮らせるように工夫している	出来る所・分かる所は職員は手を出さず、利用者が自分自身で考えた事をできる様に支援している。		
87	○建物の外周りや空間の活用 建物の外周りやベランダを利用者が楽しんだり、活動できるように活かしている	ウッドデッキから出れる中庭に畑を作っている。天気の良い日に日向ぼっこをしたり、そうめん流しを行い、地域の交流に活用した。	○	利用者に危険がない様に、危険箇所の点検や整理整頓に心掛けたい。

V. サービスの成果に関する項目		最も近い選択肢の左欄に○をつけてください。	
項 目			
88	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる		①ほぼ全ての利用者の
			②利用者の2/3くらいの
		○	③利用者の1/3くらいの
			④ほとんど掴んでいない
89	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある		①毎日ある
			②数日に1回程度ある
		○	③たまにある
			④ほとんどない
90	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている		①ほぼ全ての利用者が
		○	②利用者の2/3くらいが
			③利用者の1/3くらいが
			④ほとんどいない
91	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている		①ほぼ全ての利用者が
		○	②利用者の2/3くらいが
			③利用者の1/3くらいが
			④ほとんどいない
92	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている		①ほぼ全ての利用者が
			②利用者の2/3くらいが
		○	③利用者の1/3くらいが
			④ほとんどいない
93	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている	○	①ほぼ全ての利用者が
			②利用者の2/3くらいが
			③利用者の1/3くらいが
			④ほとんどいない
94	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている	○	①ほぼ全ての利用者が
			②利用者の2/3くらいが
			③利用者の1/3くらいが
			④ほとんどいない
95	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています		①ほぼ全ての家族と
		○	②家族の2/3くらいと
			③家族の1/3くらいと
			④ほとんどできていない

項 目		最も近い選択肢の左欄に○をつけてください。	
96	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている		①ほぼ毎日のように
			②数日に1回程度
		○	③たまに
			④ほとんどない
97	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている	○	①大いに増えている
			②少しずつ増えている
			③あまり増えていない
			④全くいない
98	職員は、活き活きと働いている	○	①ほぼ全ての職員が
			②職員の2/3くらいが
			③職員の1/3くらいが
			④ほとんどいない
99	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	①ほぼ全ての利用者が
			②利用者の2/3くらいが
			③利用者の1/3くらいが
			④ほとんどいない
100	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	①ほぼ全ての家族等が
			②家族等の2/3くらいが
			③家族等の1/3くらいが
			④ほとんどできていない

**【特に力を入れている点・アピールしたい点】**

(この欄は、日々の実践の中で、事業所として力を入れて取り組んでいる点やアピールしたい点を記入してください。)

\* 「ともに歩み、ともに生きる」住み慣れた自宅を離れ、住み替えという選択となっても自宅の延長線上と考え、穏やかにひとりひとりがその人「らしく」いられる場所を、つくっていきます。開所1年目ですが、今後、地域の中でのその方を見つめ「どうありたいのか」という思いを大切に家族、地域の方等とゆっくり、いっしょに、楽しみながら関わっていきます。

\* 音楽を通しての交流を多く行っています。

\* 季節ごとにイベントを開催しています。(そうめん流し・ミニコンサート・釣り・餅つき等)

\* 地元のイベントにも積極的に参加し、地域の皆様との交流を深めています。

\* 地熱を利用した全館床暖房を採用しており、豪雪地帯の頓原にあっても、冬も暖かく過ごしていただけます。

\* お風呂は併設の頓原ラムネ温泉のお湯を利用しています。